

科目名		<b>産業衛生学研究概論</b>	
科目責任者 森 晃爾		(産業衛生学専攻委員長)	
担当者 堀江 正知、	担当者 藤澤 浩一、	担当者 李 云善、	担当者 森本 泰夫、
担当者 和泉 弘人、	担当者 森 晃爾、	担当者 永田 智久、	担当者 永田 昌子、
担当者 江口 尚、	担当者 真船 浩介、	担当者 財津 将嘉、	担当者 井上 彰臣、
担当者 大神 明、	担当者 川波 祥子、	担当者 岡崎 龍史、	担当者 香崎 正宙、
担当者 立石清一郎、	担当者 石丸 知宏、	担当者 宮内 博幸、	担当者 石田尾 徹、
担当者 榎原 毅、	担当者 庄司 卓郎、	担当者 大和 浩、	担当者 姜 英、
担当者 河村 洋子、	担当者 東久保一朗、	担当者 中谷 淳子	
開講時期: 1年次	単位数: 4単位	時間数: 90分× 30回	
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>産業衛生学研究の基盤となる職場や作業に内在する有害要因とそれによる有害な健康影響の評価や予防に関する多面的な知識と研究手法の概要を理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職場や作業に内在する主な有害要因の有害性について説明できる。</li> <li>2) 主な職業性疾病や作業関連疾患の特徴について説明できる。</li> <li>3) 電離放射線等の物理的要因による有害な健康影響の予防策の概要について説明できる。</li> <li>4) 化学物質による有害な健康影響の予防策の概要について説明できる。</li> <li>5) 労働者の心の保持増進(メンタルヘルス)に関する課題とその評価方法、施策について概要を説明できる。</li> <li>6) 労働者の疲労やヒューマンエラーの評価と改善の概要について説明できる。</li> <li>7) 労働者の健康の保持増進に関する課題と施策の概要について説明できる。</li> <li>8) 産業衛生分野の政策やリスクアセスメントの概要について説明できる。</li> <li>9) 産業衛生分野の看護学的な評価と施策の概要について説明できる。</li> <li>10) 産業衛生分野の工学的な評価と施策の概要について説明できる。</li> <li>11) 産業衛生学研究に必要な統計学や疫学の主な手法を使うことができる。</li> <li>12) 産業衛生学研究に関する倫理のあり方について説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	講義での討論100%で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1、2	産業衛生学入門	職業性疾病の予防に関係する医学、工学、保健学、心理学、法学等に基づく学際的な科学を基盤とした産業衛生学の特徴的な視点、歴史的な発展、法令や専門職の制度、労働衛生の現状、将来的な課題等を理解する。	堀江
3、4	化学物質管理学	職業がんの歴史と原因物質についてまとめ、発がん性物質の管理取り扱いの現状について講義やカンファレンスを通して学び、理解する。	藤澤 李
5、6	職業性疾病予防学	様々な職業性肺疾患のうち、じん肺、石綿を含む職業性肺腫瘍、職業性喘息、過敏性肺炎などを中心にその特徴、基礎的な病態生理を習得するのが目的である。さらに各種の職業性肺疾患の歴史や現状を学び、産業医学的意義を理解する。	森本 和泉
7、8	産業保健政策学	産業保健活動の実施には、方針と存在するリスクに基づき仕組みを構築した上で、労働者の健康課題を継続的に改善するマネジメント的な手法と、産業保健専門職の立場から事業者と労働者を顧客として位置づけ、サービスを提供するマーケティング的手法がある。その概念と応用方法について学ぶのが、産業保健政策学の目的である。	森 永田(智)
9、10	産業精神保健学	我が国の産業精神保健の歴史を、他の産業保健活動や地域医療等と関連づけながら概観し、その現状を、研究および政策の動向を含めて整理し、今後、ウィズコロナ、ポストコロナ時代の産業精神保健領域で研究および議論されるべき事項(労働者のメンタルヘルスに関する評価と改善、職場復帰支援の方法論など)とその方向性について理解する。	江口 真船
11	作業関連疾患予防学	職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。	大神

回	項目	内容	担当教員
12、13	放射線障害予防学	放射線障害の歴史から、これまでのどのような障害があり、どのように対策を講じてきたのかを講義を通して学び理解し、今後起こりうる新たな問題点や対策方法を検討していくことが目的である。	岡崎香崎
14	災害産業保健学	災害発生時には、労働者は短期間に数多くの健康障害リスクにさらされる。これまで、災害時に労働者を守るという視点はほとんどなく、危険と隣り合わせで働くことを余儀なくされていた。昨今、災害時の労働者の産業保健の重要性がクローズアップされ、さまざまな仕組みに落とし込まれようとしている。本講義においては災害産業保健の起こりから、現在体系化されつつある産業保健対応について総論的な要素について学ぶものとする。	立石
15	産業衛生学研究の国際化	産業衛生が国際的な文脈でどのように進化してきたか、国際化が進む中での各国の取り組みや規制の違いを理解する。国際プロジェクトの管理手法を用いた演習を通じて、問題定義から解決策の提案までのプロセスを体験する。国際的な視野を持って産業衛生学の課題にアプローチする能力を磨くことを目標とする。	石丸
16	両立支援科学	治療と仕事の両立支援が求められる背景と政策と医療機関等で行われている両立支援や関わる資源について理解する。がんや難病患者が就労することによるQOLや治療に与える影響ならびに職務適性評価の方法を理解することを目標とする。	永田(昌)
17、18	作業環境計測入門	作業環境空気中有害物質の最新の計測技術、また、空気中に浮遊する細菌や真菌の最新の計測技術・評価方法について講義やカンファレンスを中心に学び、最新の計測制御手法の習得を目指す。	宮内
19、20	産業衛生工学	有害化学物質の性質、作業環境中の挙動、評価、改善手法について講義やカンファレンスを中心として、産業衛生工学の基本の習得を目指すのが目的である。	東久保石田尾
21、22	人間工学	疲労、ストレス、メンタルワークロードの評価における心理生理学的手法とその例を解説する。 ヒューマンエラーが原因とされる事故事例について、人間工学的改善方法とシステムの人間工学的設計について解説する。	榎原庄司

回	項目	内容	担当教員
23、24	健康開発科学領域の未知の課題	健康開発科学領域の研究(運動、栄養、喫煙)に関する介入研究についての最新の知識を習得し、これから職域で介入研究を進めるにあたって必要な介入群と対照群の設定方法について理解する。	大和 姜
25	リスクを効果的にコミュニケーションする	産業衛生活動には、さまざまな「リスク」をコミュニケーションし、就労者の適切な安全衛生行動を促す必要がある。本講義では、リスクの認識とリスクの実際の差を埋めるためのリスクコミュニケーションについて、講義で具体的な事例を紹介し、グループ討議によって理解を深めることを目指す。	河村
26、27	産業保健看護学	産業保健における看護学の位置づけとその歴史的展開や現在の課題及び今後の展望について、参加型講義やカンファレンスを通して学び理解する。また、看護の視点からの「労働と健康の調和をはかる」ことの本質とアプローチ方法の特徴を理解する。これらを通して、産業保健における課題解決に向けた多職種連携の在り方を検討する。	中谷
28	生物統計学・疫学	産業保健領域で疫学研究を行う際に必要となる基礎的な知識(リサーチ・クエスチョン、仮説、文献検索、研究デザイン、偶然誤差・系統誤差[バイアス]、代表的な統計手法、倫理的配慮)について、疫学研究の一般的な手順と対応させながら解説する。また、これらの知識を踏まえ、当該領域の原著論文を精読・執筆する際に必要となる知識(論文の構造、論文を科学的・批判的に読むためのポイント)についても解説する。	井上
29	産業医学実装科学の基礎	産業医学領域における健康上、労働衛生上の課題に対し行われる、疾病予防や健康の保持増進、就業環境の快適化等を目的とした予防介入や改善活動について理解する。これらの介入を促進するための体系的アプローチの手法として産業医学実装科学の理論の基礎を学ぶ。	川波
30	高齢労働者社会医学	高齢労働者に係る労働災害の現状と、高齢労働者を含む社会医学関連領域について討議を行い理解する。また、実習形式で、仮想データをもとに研究をデザインし簡単な分析を行う。	財津